

手をつなごう

平成19年3月12日

岡山県立東備養護学校

支援部だよりNO. 34

第6回専門家チーム・巡回相談員 連携会議開催！3月6日



回を重ねたこの連携会議も今年度最後となりました。皆さん、ご多忙の中、いつも都合をつけてご出席くださり大変ありがたかったです。

今回は今年度を振り返っての反省・感想をお一人お一人からいただきました。



- ・自分たちがしてきた支援の評価が難しい。こちらの見通し通りにできればよしとするのか、先方の満足度なのか…。
- ・言葉の指導では子どもの声や言葉を直接聞かなければならないので、短時間で何人もというのは難しかった。近隣にことばの教室がない地域では継続した支援に結びつけるのが難しかった。
- ・学校の事情で多くの回数出向けなかったのが、適切な所につなぐ、混乱状態を一緒に整理する等の支援を行った。
- ・来年度は岡山市もこの事業の対象になるが、どのようになるのか、イメージがわからない。
- ・最初は一度に多くのケースを相談されてとまどったが、発達のつまづきがどこにあるのかなどの理解が徐々に進んだ。
- ・支援に出向いた学校が熱心な取組をされていたので、刺激を受けた。これから先の支援としてはコーチングの技術が大切ではないか。校内でも参考にしながら頑張っていきたい。
- ・巡回相談には出向けなかったが、この連携会議等で学んだことを校内の支援に活かしている。
- ・学校規模や地域の事情などによって支援回数を一律に決められない面がある。
- ・巡回相談はよい勉強になるが、負担も大きい。この調子で依頼件数が増えていくと、対応できるかどうか不安である。

専門家チーム員より

- ・他地域に比べ、東備地域は相談実績が圧倒的に多い。
- ・コーディネーターがやる気をもって、学校がどれくらいやっていけるかのバックアップをするのが巡回相談。手を抜いてできる仕事ではない。
- ・困った子どもたちがいる。取り巻く状況は厳しい。そこに入っていく巡回相談員は大変な状況だと感じている。
- ・誰がキーパーソンか、組織として見ていくことが大切。
- ・見立てをする→共通理解をする→計画を立てる→実行する→確認する…そのサイクルを提案する役割。まとめることで観点がでてくる。それをよりどころに相手の力を見出し、相手を主体にするようもっていく。契約として取り組むことも大切。

- ・支援の大きな目標はそれぞれの学校に力をつけてもらうこと。
- ・岡山市は毎週こういう会をしている。相談員としてのトレーニングもしていく必要がある。

専門家チーム員・巡回相談員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。